

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 4月30 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101843
法人名	有限会社ささえあい・ねっと
事業所名	グループホームさちね
所在地	群馬県前橋市上細井2015 (電 話) 027-260-1643
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(20 年 3 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10人 常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.9 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 350 円 昼食 450 円	夕食 500 円 おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	5 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	82 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮内内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームから見渡せる田園風景より自然の移ろいを感じ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供たちの姿や声を目の前にし、時には声をかけるなど、季節感や喜びを肌で感じる事が出来て大変環境に恵まれている。又利用者が歩いて行ける所に商店があるので、職員と一緒に食材の買物に出かけており、日々生活している事を実感している。昨年11月に管理者・職員の異動が見られたが、現在は新管理者のもと、職員が一丸となって日々の支援に取り組んだいる姿が伺えた。利用者・家族とのコミュニケーションの機会を多く持ち、それぞれの方の思いや希望を受け止めて、個別支援を大切に考えた対応に取り組んでいるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題についての話し合いはしていないが、入浴支援や研修の機会等については前向きな姿勢で取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者と一部の職員により作成したものである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。ホームの運営状況や行事等の報告と共にホームから議題を提供して、話し合いやお願い等をしている。外の門の施錠の件についても話題として提供したが現在検討中である。又ボランティアのお願いをし、サービスの向上に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情受付窓口を明記している他、玄関に苦情ノートを置いている。職員は積極的に言葉をかけ、家族との会話の中から、希望・意見・不満等を聞き取り、運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 推進会議のメンバーである老人会長・民生委員や地元居住の職員等を通して行事等の情報を得て、地元開催の運動会の見学、地域主催の防災訓練への参加など、出来るだけ地元の人との交流の機会を作っている。ホーム周辺の農家の方から野菜等を頂く事があるので、それを契機として交流を深めるよう努めている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「介護する人 される人 誰もがみんな 家族です」を事業所独自の理念として策定している。地域の中で暮し続ける事を念頭に置いての支援は心掛けているが、理念についての見直しはしていない。	○	既存の理念に「地域の中で交流を持ちながら生活する事」を意識した内容を付け加える事を検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時や職員会議等で運営理念に触れ、管理者・職員は共に確かめ合いながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、推進会議のメンバーである老人会長や民生委員の方、地元居住の職員等を通して情報を得て、地域の運動会の見学、防災訓練の参加など、出来るだけ地元の人と交流を持つように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義については職員に伝えているが、今回の自己評価は管理者が中心となって一部の職員との話し合いで作成した。前回の評価に対しての検討はしていない。	○	自己評価の一連の過程を全職員で取り組む事で、日頃のケアの見直し等が可能となり、サービスの質の向上に活かしていけるので、全職員で取り組んで欲しい。又外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて取り組む事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームでの生活の様子、行事等の報告、ホームから議題(外の門の施錠の問題やボランティア依頼の件等)を提供して意見の交換をしサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者を訪ね各種報告書の提出や疑問・問題等について相談をして、サービスの質の向上に反映させている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は少なくとも月に1回、多い方は週に2～3回来訪されており、その際ホームでの暮らし振りや健康状態、預かっている金銭の出納の報告等をしている。又ホーム便りを月1回発行して、利用者の様子や行事等のお知らせをしている。健康状態や利用者の様子に変化の見られる時には電話で報告することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を明記しているほか、玄関に苦情ノートを置いている。職員は家族の来訪時に積極的に言葉をかけ、気軽に話の出来る雰囲気を作り、家族との会話の中から希望・意見・不満等を聞き取り運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人等の事情で管理者や職員等の異動がやや多く見られたが、現管理者体制になってからは離職・異動を最小限に抑える努力をしている。新しく入職した場合は利用者にきちんと自己紹介して、利用者とのコミュニケーションの機会を多く作り、出来るだけ早く馴染みの関係を作るように努めている。	○	職員交代による利用者のダメージを考慮して、馴染みの職員が継続的に支える体制を作り、止むを得ず異動の場合の引継ぎ等の配慮等について更に努力を続けて欲しい。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会になるべく多くの職員が参加するように配慮している。最近では栄養に関する研修会に参加しており、内容は職員会議等で報告し全員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同系列内のグループホームと情報交換をしながらサービスの質の向上に取り組んでいるが、今後は交換研修もとの話し合いをしている。	○	より良いサービスを利用者に提供するために、管理者や職員が地域の同業者と交流を持ち、勉強会・研修会・情報収集等の機会を作ることを検討して、サービスの質の向上に反映させて欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、職員等とも話し合い、納得してから利用を心掛けている。利用当初、不安を感じるような場合はケアマネジャーから情報を得たり、家族の協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員はひとつの家族として、共に過ごし・学び・支えあう関係を大切に考えて、日々の支援にあたっている。一緒に食材の購入に出かけたり、昔の行事や、料理の作り方を教えてもらう等、アドバイスや誉められる場面等が日常的に見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と向き合い、日頃の言動等から利用者の意向や希望の把握に努めている。意思疎通の困難な方には利用者の表情等からその思いを汲み取ったり、家族やケアマネジャーから情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向・要望等の情報や介護記録等を基にして、毎月行われるカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	昨年11月の管理者の交代にともない全利用者の見直しを行っている。基本的には6ヵ月に1回の見直しであるが、状態の変化に伴い、随時、現状に即した見直しを行ない新たな計画を作成している。	○	利用者に対してより適切な対応をするために、特に変化が見られない場合でも、月1回のモニタリングと見直しの期間の短縮についての話し合いの機会を持って欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合によりかかりつけ医受診の付き添い、緊急時の病院への移送、買物の同行支援など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。入居時に協力医療機関についての説明を行っており、協力医受診時の状況等については家族の訪問時や電話等で報告している。協力医以外の受診の場合も家族の要望で職員が同行することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、入居時に管理者と家族は話し合っているが、かかりつけ医、職員等も含めての話し合いはしていない。	○	重度化や終末期に対して事業所が対応しうる最大の支援を踏まえて、関係者全体で話し合いを持ち共通の方針を持つ事が望まれる。利用者・家族が安心してホームを利用するためにも重要事項説明書等に明文化する事も検討して欲しい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーの配慮については、会議等で常に確認しながら、利用者の誇りを損なわないような言葉掛けや対応を心掛けている。個人情報の扱いについても配慮し、記録物の保管等に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族から得た利用者の生活暦を踏まえて、一人ひとりのペースや希望を大切に考えて、出来るだけ希望に添った支援を心掛けている。ゆっくりと食事を楽しむ方、テレビを観る方等それぞれが自由に過ごされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は隣接するスーパーと一緒に食材の買物に出かけ、共に食事の準備をする等、食事は一日の活動であり、楽しみの一つとして支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午後の2時頃より、いつでも入浴の出来る準備が出来ている。利用者の体調や希望にもよるが、1週間に2～3回の入浴の支援をしている。入浴を拒む方には言葉かけや不安にさせない誘導の工夫をして、少なくとも週に1回の入浴を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、モップかけ、テラスでの日向ぼっこ、テレビ観賞、唱歌、花見、運動会見物、保育園児との交流、併設しているデイサービスの行事参加等、役割・楽しみごと・気晴らし等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買物、ごみ捨て、テラスでお茶を飲むなど、出来るだけ屋内だけで過ごさず、戸外の空気を吸う機会を作るように支援している。家族と外出する利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけていないが外の門の鍵はかけている。現在外の門の施錠について推進会議等にて検討中である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応のマニュアルを作成している。年に2回避難訓練を行なっている(うち1回は消防署に協力を依頼している)。運営推進会議等において長寿会や民生委員に災害時の協力を依頼している。又地域で行なわれる防災訓練にホームの職員が参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は特別立てていない。食材の購入時に栄養のバランスを考えながら利用者と相談してメニューを決めている。食事量についてはチェックして記録に残しているが水分の摂取量については特定な利用者のみ記録している。	○	食べる量や栄養のバランスは勿論大切であるが、水分の量が1日を通じて確保できるよう、おおよその量を把握する事が大切と思われる。食事量と共に水分量もチェックし記録する事を検討して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の一部にはテレビを観ながらゆっくりと落ち着ける畳のコーナー、中庭には季節の草花が、利用者の居室からは保育園児の遊ぶ様子が見られる等、生活感や季節感を感じて、居心地よく過ごせるような配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンス、籐の椅子、ちゃぶ台、使い慣れた寝具一式、家族の写真、時計、衣装ケース、化粧品等、馴染みのある物や好みの物が持ち込まれ、安心して過ごせるような工夫をしている。		